

平成 19 年度 第 3 回 公民館運営審議会 会議要旨

日時	平成 20 年 2 月 21 日 (木) 午後 2 時 ~ 4 時
場所	市民センター 203 室
出席者	委員長 樋口 茂 委員 伊藤 進二・岩井 晃治郎・河村 照子・小柴 明子・ 林 哲也・藤田 まさ代・本玉 元 事務局 竹内公民館長・中西館長補佐・永吉指導主事
会議の公表	公開 非公開 部分公開 < 非公開・部分公開とした場合の理由 >
傍聴者数	0 人

1 議題

協議事項

- (1) 芦屋川カレッジ第 25 期生、芦屋川カレッジ大学院第 1 期生の募集について
- (2) 春の公民館講座・開講記念講演会、春の公民館講座の募集について

報告事項

- (1) 冬の公民館講座等の募集結果について
- (2) 兵公審協中央研修会 (兵庫県公民館大会) の実施結果について
- (3) 第 60 回優良公民館表彰 (文部科学大臣表彰) の受賞について
- (4) その他

2 協議 (報告) 内容

協議事項については、事務局作成の資料をもとに説明を行い、各委員から意見を受けた。

報告事項については、事務局作成の資料をもとに報告を行い、各委員から意見を受けた。

〔 主な内容等 〕

協議事項

議題 (1) (2) について各委員に説明を行った。その後意見交換を行い、各委員から次のような意見が出た。

委員から、「芦屋川カレッジの受講料だが、現在の 15,000 円という受講料になった当初は高くなったようにも感じたが、数年間を経て、そのような感覚はなくなってきた。受講料に対して内容は毎年充実していると感じている。」という意見があった。

委員から、「芦屋川カレッジの男女比だが、応募状況にもよるのだが、男女の人数が同じくらいであれば係活動等がよりスムーズに進むように感じます。」という意見があった。

委員から、「芦屋川カレッジではすでにあるが、新しく実施される大学院でも、年に数回でよいので公開講座の制度を設けてほしい。せっかく良い内容なので、多くの方に学習の機会を提供

できたら素晴らしい。」という意見があった。

委員から、「芦屋川カレッジ、大学院共に、受講生が学習内容を将来地域に還元できるような仕掛けを考えていくことが望ましい。たとえば学校教育との連携などは出来ないだろうか。」という意見があり、事務局から現状について説明を行った。

委員から、「今回カレッジ大学院は1期生だが、この1期生が上手くいけば、大学院だけでなく学友会の力も市民に還元できる道が開ける。仕掛け作りを上手くしてほしい。」という意見があり、事務局として現在企画中のなかに反映できるように努力をしていきたい。

委員から、「本年度の秋に行ったような市民の手作り講座の実現の機会を今後も設けてほしい。」という意見があった。

委員から、「デジタルデバインドが言われる現在、作品を作るだけでなく、ITを使った情報収集方法などを学習するような講座が開設できないか。また、携帯電話についても同様な講座が出来ないか。」という意見があった。

報告事項

議題(1)(2)(3)について、各委員に報告及び説明を行った。(4)については、次回(来年度)の第1回目の会議を、8月28日(木)の午後2時より市民センターで開催することが決まった。